



(COMO VAI? =ポルトガル語で「ごきげんいかが?」)

第5回 新年の行事と食文化

日本とブラジル、新年の過ごし方

皆さん、こんにちは。このあいだ新年がスタートしたなと思っていたら、もう2月になりました。皆さんは、お正月はどのように過ごされましたか。

日本のお正月という、家族そろっておせち料理や雑煮を食べたり、初詣にいったりするイメージが浮かびます。年賀状を受け取るのも楽しみのひとつですね。日本のお正月には、どこかゆっくりと、落ち着いた雰囲気を感じます。私も今年は、家族みんなで、そのような日本のお正月を満喫しました。

一方、ブラジルの新年は、街のあちこちから聞こえて来る、新年を祝うカトリック教会の鐘の音で始まります。その後、家族や友人たちが集まって、家や海岸でパーティーを開きます。みんなでわいわい楽しく過ごすのが、ブラジル人のお正月の過ごし方です。若い人のなかには、一晩中踊りあかしたり、浜辺で花火を上げる人もいます。

着物と日本食

私は、このようなブラジルスタイルのお正月も好きですが、落ち着いた雰囲気の日本のお正月も大好きです。私だけでなく、日本に住む日系2世、3世といったブラジル人の中にも、日本の風習に触れ、その素晴らしさに感動する人がたくさんいます。

たとえば、「成人の日」がそうです。20歳になって、大人の仲間入りをする、この記念すべき日に、日本の女性の多くが振りそでを着ます。この振りそでは、私も含めたブラジル人女性の眼にとっても魅力的に映ります。20歳を迎える人だけでなく、日本で暮らす外国人女性の多くが、振りそでに代表される着物を、一度は着てみたいと思っています。実際、今年1月に、外国の人で、ボランティア団体から提供していただいた着物を着る体験をした人がいました。彼女たちは初めて着物を着て、とても感動していました。



着物を着たノグチ・ロザリョさんと子どものゆりこさん

私は今年のお正月は、料理の本を見ながら、自分なりにお節料理やお雑煮、お汁粉などを作りました。見た目も味つけも、日本人で

ある母には、なかなか近づけません、家族にはとても好評でした。

現在は、ブラジルでも日本食がブームとなっています。すし、さしみ、納豆、豆腐などは、低カロリーで、健康にもよいため、ブラジル人の食卓にもよく登場します。食習慣が違うので、初めは日本食に違和感を感じるブラジル人もいますが、一度食べてみると、日本食ファンになる人も多いようです。また、見た目の美しさも、外国人が日本食を好きになる理由の一つだと私は思います。

ブラジル料理って？

ブラジル料理の多くは、油っこく、こってりとしています。また、ブラジル人は肉が大好きなことでも有名です。CHURRASCOと呼ばれる、串に刺したお肉をご存知でしょうか。ブラジルの代表的な料理でもあるCHURRASCOは、もともとGAUCHO(ブラジル南部のカウボーイ)たちに親しまれていた料理で、今ではブラジル全土で食べられています。ブラジルでは、どのようなときでも焼いた肉が食卓にあがり、家庭の食卓から、結婚式や誕生日にいたるまでどんなときにも登場します。このほか、ARROZ(炒めたご飯)、FEIJAO(塩味の煮豆にソーセージや燻製の肉を入れたもの)、SALADA(さまざまなサラダ)といったブラジルの代表的な料理は食卓に欠かせません。食後には必ずCAFEZINHO(コーヒー)が出ます。



代表的なブラジル料理、手前左がFEIJAO

ブラジルに残る日本の文化

私の両親を含め、かつてブラジルに移住した日系人の多くは、このようなブラジルの食習慣に戸惑いを覚えたはずですが、しかし、彼らはそれを受け入れ、一方で日本の文化もしっかりと残しました。私の故郷であるイボチ市では、今でも日系人が集まって、お正月に臼と杵でお餅をつく習慣が残っています。日本でも、最近では餅つき器を使うことが多いと聞きましたが、地球の裏側のブラジルで、自分たちの母国の文化を伝えているということに、私は大変感動します。

最近、彦根市内でも、ブラジル料理を味わえる店があり、在日ブラジル人も故郷の味を楽しむことができます。彼らは祖国の味を一番好みますが、日本料理にもその良さを認めはじめています。他国の食べ物を食べることは、その国の文化に触れたり、歴史を感じることができ、とても素晴らしいことです。皆さんもぜひ、機会があれば、ブラジル料理をご賞味ください。

(彦根市国際交流員 田尾ロザーネ)